

## 花岡収容所（仙台第7分所）メモ

～ジョージ・ウィリアム・“ピーター”・ディクソンさん～

1944.12.1 東京第9分所として、秋田県北秋田郡花岡町（現・大館市花岡）字観音堂に開設。

1945.1.29 米捕虜 146 人が到着（フィリピンから台湾を経て）

1945.3.30 米捕虜 100 人が到着（ウェーク島から上海、川崎を経て）

1945.4.14 仙台第7分所と改称

1945.6.27 豪捕虜 44 人が到着（直江津、善通寺を経て）

1945.8.15 終戦

1945.9.11 頃 帰国

終戦時収容人員 288 人（米 245、豪 43）、収容中の死者 6 人。

●収容所は、秋田県北秋田郡花岡町（現・大館市花岡）字観音堂にあった。現在は空き地になっている。

●捕虜たちは藤田組が経営する花岡鉱山で使役された。亜鉛や鉛などを産出する露天掘りの鉱山で、捕虜たちは収容所から徒歩 2,3 分の露天掘り現場の他、機械工場や電気工場でも働いた。

●山本所長時代に 4 人の捕虜が逃亡を図り、仙台の憲兵隊に送られた。

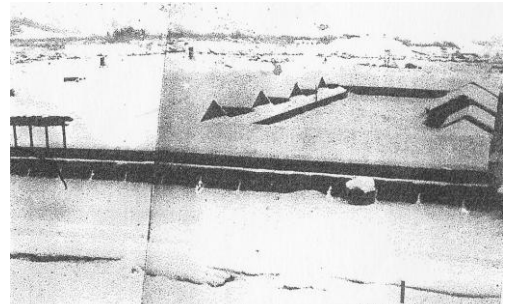
●収容中に 6 人の捕虜（米 5、豪 1）が死亡した。このうち米捕虜 Arthur Bennett Taylor と、豪捕虜 Ralph Venn Johnson は終戦後の 8 月 29 日に投下物資の下敷きになって死亡した。豪の Johnson は横浜の英連邦墓地に埋葬されている。

●終戦後、所長 1 人と軍曹 2 人が戦犯に処せられた。

●花岡鉱山と言えば、1945 年 7 月 1 日、過酷な労働に耐えきれずに蜂起した中国人が 400 人以上虐殺された「花岡事件」で知られる。この事件が発覚したのは、終戦後、進駐軍が連合軍捕虜収容所の調査のために花岡を訪れた時、中国人のいた「中山寮（ちゅうさんりょう）」の小屋で棺桶から手足のはみ出ている死体を見つけたのがきっかけだった。蜂起に加わった中国人・李振平氏の証言によると、当初の計画では蜂起に連合軍捕虜をも巻き込む予定だったが、不測の事態が起こって実現しなかったという。捕虜たちの生活も厳しいものだったが、中国人よりはまだましだったと李氏は語っている。

●2010 年、地元や全国の有志により、「花岡事件」の史実を次世代に伝えていくための拠点、「花岡平和記念館」が建設された。「中山寮」の中国人が掘削工事に使役された花岡川の畔にあり、事件に関わる様々な資料の他、連合軍捕虜関係の資料も多少展示している。

（文責：笹本妙子）



雪に埋もれた収容所（終戦後の 46.2 撮影）



収容所跡地（2010.6 撮影）



終戦直後のオーストラリア人将校たち



花岡平和記念館